

初雪時期の予測と薬学

薬学雑誌 1898 年度 191 頁, 1045 頁

科学を学んだものとして、地球温暖化とか(都市温暖化は別ですよ)、それが CO₂ だとか、ましてやエコ、エコ、とか言いながら私より贅沢な人には違和感がある。でも、昔はもっと雪が降ったことには、懐かしい記憶が同意する。

薬学雑誌には意外と気象関係の記事がある。「霜雪は薬草栽培上に多少関係を有するものなれば…」と仙台の薬誌通信委員が石巻測候所の初雪データを分析、日本各地の初雪と比較した。

測候所	観測年数	平均初雪日	観測以来最も早い初雪
鹿児島	15	12月28日	明治24年12月4日
大阪	16	12月26日	明治16, 17年12月4日
熊本	8	12月12日	明治14, 25年11月26日
東京	22	12月21日	明治9年11月17日
金沢	16	11月28日	明治27, 28年11月14日
石巻	11	11月25日	明治22年11月3日
札幌	22	10月29日	明治13年10月5日

討ち入り12月14日は明治6年以降の新暦だと1月30日になる。

石巻の気象第6区管内には福島、宮古に出張所があった。現在東北地方全体をカバーする仙台管区気象台も、関東大震災後の1926年に地震計を設置するため、また予報の問い合わせが増え、港湾だけでなく都市部にも気象官署が必要とされたために、新設された石巻測候所仙台出張所が前身である。

一方、静岡の薬誌通信委員は、測候所がないため静岡衛生病院で気温、湿度、気圧を観測し、名古屋、東京と比較した。「斯くのごとき佳良なる気候は衛生上最も貴重すべきものにして、療養所として価値あらん」。

有機化学などが盛んになる前の明治31年、彼らは植物学をはじめすべてのものに興味を持った。静岡の彼は、なんとなく体感していたものが西洋人の発明した寒暖計というもので数字になることに感激したのかもしれない。

小林 力